

令和7年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 新宿区立牛込仲之小学校

学校の共通目標 【HP公開用・様式1・7年11月25日】

授業作り	重点	・ 確かな学力の向上を図り、生きる力を育むという視点で学習活動を構想する。
環境作り		・ 教員間で学力向上に向けた方針の共有を図り、具体的な方策を検討し、実践する。

学年の取組について

学年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		・ 正しい言葉遣いや返事などの基本的な学習のルールが身に付くように指導する。 ・ 平仮名、片仮名、漢字の字形を整えて、書き順も正しく書けるようにする。 ・ 繰り上がりのたし算、繰り下がりひき算などの基本的な計算が定着できるように繰り返し習熟する。 ・ 協働的な学びの基礎となる話し合い活動の充実	① 「はい。～です。」などの話型の提示や「言葉の宝箱」などでのモデルの提示 ② 学習ワークやノートなどの適切な評価 ③ 基礎が身に付くような宿題を毎日出す。 ④ デジタルドリルの活用 ⑤ 1単位時間の中にペア活動を取り入れる学習過程の工夫。 ⑥ 身に付いた力が明確なるような学習展開を工夫し、めあてに対する振り返りを確実にに行えるようにする。
2 学 年		・ 新出漢字が増えるので、正しい筆順で丁寧に書けるように定着を図る。 ・ 長音、拗音、促音、撥音を正しく使えていない児童がいるため、正しく使えるように指導する。 ・ 丁寧な話し方ができるよう言語指導を重ねる。 ・ 人の話を最後まで静かに聞く姿勢を身に付ける。 ・ 算数の問題では、答えを出せる児童は多いが、根拠をもって自分の考えを説明できるように指導する。 ・ 文章を書く時や答えを書く時に、句読点のつけ忘れや接続語の間違い、単位のつけ忘れを指導する。	① デジタルドリルを活用し、習熟を図る。 ② ノートやワークシート等の誤字脱字を丁寧にチェックする。 ③ 授業だけでなく、学校生活の中で話し方、返事の仕方を徹底する。また、発表するときは返事をし、語尾が「です」「ます」となるよう意識する。 ④ 教室や机上进行を整え、話し手の目を見て話を聞くことを徹底する。 ⑤ どの教科でも、自分の考えを表現できる時間を確保する。 ⑥ テストの終わりや自力解決の時間に自分で見直す時間を確保する。
3 学 年	・ 言語の知識、技能の習熟が比較的低く、既習漢字の定着と合わせて、語彙を獲得する必要がある。 ・ 図形に関する知識、技能の習熟が必要である。 ・ 算数の学習において、個人差が大きく、そこに対応していく必要がある。	・ 漢字の確実な定着に向けて指導する必要がある。 ・ 読書量を増やし、語彙力を向上させる必要がある。 ・ 自力解決の時間を授業で確保し、作図などの課題解決に繰り返し取り組む必要がある。 ・ 既習事項の習熟を図る時間を設定し、デジタルドリルに加えて復習プリントも活用し、個人差に対応した課題を提示し、指導する。	① デジタルドリルの活用 ② 読書等の環境整備と時間の確保 ③ 自力解決の時間の設定 ④ 三角定規やコンパスなどの道具の使用の慣れ ⑤ 既習事項の習熟を図る時間の設定

4 学 年	・学力差が大きくなりつつある。 ・文章を書く力に個人差がある。 ・自分の意見を論理的に組み立て、説明する力を向上させる必要がある。 ・算数科では特に図形分野に課題がある。用語の定着や図形を頭の中で思い浮かべて考える力、正確に作図する力を身に付けさせる必要がある。	・計算、漢字などの基礎的な学習を定着させる。 ・ある程度の文章量で考えを言語化することができる。 ・答えを出すために、どう考えたかを説明できるようにする。 ・文章構成を考えてわかりやすい文を書けるようにする。 ・図形を頭の中で思い浮かべて考える力、正確に作図する力を身に付けさせる。	① デジタルドリルの活用。 ② 他の児童の文章をモデルとして示す。 ③ どの教科でも授業の中で話し合いの時間を設け、自分の考えを説明する機会を増やす。その際には、聞き方の指導も徹底する。 ④ 後期の週末の課題に作文を設定し、段落の構成や順序立てて文章を書けるように指導する。 ⑤ 定規やコンパスの正しい使い方をもう一度確認し、丁寧に指導する。図形に関する用語は繰り返し確認する。具体物を用いながら、指導し、想像しやすくする。
5 学 年	・言語事項として、理解言語、表出言語共に学年相応の力が十分に定着していない児童が一定数いる。言語活動、特に、読解力と表現力の育成が必要である。 ・論理駅な思考力、プログラミング的な思考力の育成に必要感を感じる。課題解決に向けて、課題を捉えたり、解法を予測したり、主体的に学びを調整したり（トライ＆エラー）する学び方の育成が必要である。 ・学力の定着度は二極化の傾向にある。A層、B層への発展的な課題の設定、C層、D層への個に応じた指導など、習熟度に合わせた学習内容、学習方法、学習材の工夫が必要である。 ・「聞くこと」を苦手としている児童の割合が多い。考え方を深め、広げていくためには、互いの考えを「聴き合う」態度の涵養が必須である。	・問題把握、予想と見通し、自力解決、対話的な学び、評価と新たなめあての設定といった学習過程を、適切に位置付けた指導計画を作成する。 ・特に本校の研究課題である「対話的な学び」の充実を図る。ペアによる交流、小グループによる対話、学級全体による討論など、単元目標と学習内容に準じて、適切に場の設定をする。 ・「対話的な学び」の前提となる学びとして、「自力解決」の場を大切に。習熟度の差や学びのスタイルの違いに応じた支援、個別指導の充実を図る。 ・端末を活用し、数熟度に応じた学習を工夫する。デジタルドリルの活用はもちろん、C層、D層の児童に足しては、スモールステップによる学習、課題の効果的な可視化を推進する。 ・「対話的な学び」の基盤として、「聴き合い」の指導に重点を置く。発言者の意図や発言内容の良さを見出そうとする態度を身に付けられるよう、指導・支援を行う。	① 学習過程を工夫した単元計画の作成 ② 自力解決を支援するための、指導の個別化の充実 ③ 興味・関心、習熟度に応じるための、学習の個性化の充実（タブレット端末の活用） ④ 学習者同士の対話を促すための、協働的な学び、グループ活動等の意図的な設定（日常化） ⑤ 指導者との対話を促すための、受容的な姿勢と効果的な声かけ ⑥ 学習材との対話を促すための、支援の工夫（つまずきの予測と手立て） ⑦ 「聴き合い」を促すための、学習形態の工夫、ワークシート等学習材の開発（UD化）
6 学 年	・学力調査では、国語・算数ともに、年々D層の児童が減少している。個に応じた指導の充実を図ってきたことへの成果が見られた。 ・話す・聞く力については、技能の向上を目指したい。特に話す力について、場に応じた話し方や、自分の考えを論理的に組み立て説明する表現力を身に付けることが課題である。 ・算数では学力差が大きい。習熟度別学習を計画的に行い、基礎的な学力の確実な定着を目指し、中学校の数学へとつなげていけるようにする必要がある。 ・自分の考えをしっかりと、論理的に組み立てて説明する力については、今後さらに指導を積み重ねていく。また、相手の考えを聞き、さらに自分の考えを深められるように、聞く力・聞いて考える力の向上を図る。	・自分の考えを話す場や発表する機会を多く作り、きちんと話すことへの抵抗感をなくす。 ・誰もが話しやすい環境をつくるために、良い聞き手を育てる。 ・自分の考えを言葉や図などで端的に説明できるようにする。 ・習熟度別に指導方法を工夫し、基礎的な学力を定着させる。 ・中学校の学習にスムーズに移行できるように小学校で学習する内容の基礎・基本の確実な定着を確実に。行う。 ・学習の中での「対話」を十分に行い、児童の考えに広がりや深まりをもたせる。	① 授業の中で考えを書かせる時間を意図的に設定し、自分の考えをまとめること、説明して伝えることを繰り返し行う。 ② 授業の中で話し合いの時間を設け、考えを説明する機会を増やす。 ③ 話し手の考えを受け止めながら最後まで聞く、良い聞き手を育てるための指導を行う。 ④ タブレット端末を活用し、調べたりまとめたりしたことを発表する機会を多く作る。 ⑤ 学習の中で対話する時間が十分にとれるよう、授業展開を工夫する。 ⑥ 自分の思いや考えを表現できるよう、自分自身との対話ができる時間を十分にもたせる。 ⑦ 教師がモデルとなり、児童の思いや考えを「待つ・聞く・受け止める」姿勢をもち、児童の考えの表出を支える。